

へさせ給へりけり、そのふみは、匡房の中納言よりつたはりて、よみつたへたる人、かたく侍なるを、この殿ぞつたへさせたまへりける、いまは師のつたへもたえたるにこそ侍なれ、かやうにしてさまざまふみどもよませたまひ、僧のよむふみも、因明などいふならの僧どもに、たづねさせたまふとかやきこえき、

〔續古事談二臣節〕四條大納言隆季、或人ニ問云、行幸ノ字、コレヲモチヒル何ノ故ゾ、其人エ答ヘザリケリ、ソバニテ梅小路中納言長方、ソレハ本文アリ、天子行處必有幸トイヘリ、故ニ幸ノ字ヲ用ル也、御幸ニハ行ノ字ヲ用ル、小野宮水心抄ナムト云、古キ日記ニハ、皆御行トカキタル也、タゞシ世ノ末ザマニハ、上皇ノ御ユキミナ勸賞アリ、サレバ幸ノ字ヲ用ルモ、議タガハザル事也、仙院ノ渡御ヲバ御行ト云、帝王ノ御出ヲバ行幸ト云也、御行モトヨリミユキナリ、行幸モ又ミユキトヨムナリ、

〔續古事談一王道后宮〕宜秋門院藤原任子后ノ御名ノサダメアリケル時、兼光中納言任子ト云御名ヲタテマツラレタリケルヲ、靜賢法印申テ云、白氏ノ遺文ニ、任子行トイフ文アリ、シカモカレハコトアル文也、此御名イカバアルベカラント申タリケレバ、九條殿藤原兼實モチヒサセタマヒテ、アマネク御尋アリケレドモ、サル事アリト申ス人モナカリケルニ、敦綱バカリコソオボエテサル事侍リ、モトモサルルベキコトナリト申シタリケレ、大才ノ人モ、オノヅカラミオヨバヌ事アリ、チカラヲヨバザル事也、

〔玉海〕安元三年五月十二日辛亥未刻賴業真人來、余藤原兼實召簾前談雜事、吐和漢才、詎敢比肩、誠是國之大器、道之棟梁也、衆徒火災之間事、具以談語、不遑記、

〔長興宿禰記〕文明十三年四月二日丙午、今日申刻一條禪閣前關白太政大臣准后薨御十歲天下才人、近代無雙名譽御事也、世以奉惜、公私悲歎、不可過之、長男前關白、去年冬於土佐國薨給、末子右